

未来に向かって その1

令和2年度へ向けて、様々な試みを準備していく時期です。ここにきて、様々な対応を強いられる出来事が相次いでいます。世界的に大きな試練が我々の前に立ちふさがっています。県のレベルでも、学校のレベルでも、いいことばかりではなく、悪いことをどのように回避し、克服するかが今後の大きな課題であります。

耐え忍ぶ勇気こそ、困難に打ち克つ原動力であり、この継続的な意思と絶え間ない前向きな対応こそ、次なる時代を形成する大きな力となると考えます。

野球部も、この時期の練習内容の変更を強いられています。具体的には、遠征に行つて仕上げをする予定でしたが、あくまでも自宅から離れ集団で感染するような危険を回避するために、遠征を取りやめて工夫して仕上げを見定めています。3月8日から解禁となる練習試合もまた、当初の計画を綿密に練り直し、大会そのものに照準を合わせていこうとしています。

学校の応援体制も、13日の組み合わせ抽選後、素早く対応できるように、細部の点検を進めるとともに、あらゆる角度から、可能性を探りながら、シミュレーションをしながら対応を進めています。

きっと、何年か過ぎてしまえば、そんなこともあったなというくらいの出来事になるかもしれませんが、最悪の事態も想定しながら、当事者としてはとても大変な作業を強いられていると考えます。なぜここまでしなければならないのかといぶかしく考えることもあるのですが、学校という組織自体が、あらゆることを想定しながら、ことを進めなければならない場所ですので致し方ありません。

ただ、この組織の特徴とすれば、やはり人の力こそが組織の力であると確信します。一人きりではやり切れませんが、多くの教え子や同僚たちが、あらゆる配慮を持って対応しようとしていただいているのを見ると、心から磐城高校のすばらしさを体感します。

様々な取材の中で、子供たちが話す内容もしっかりとしていますし、これからの10年20年後のこの学校も、この人垣の重なり具合なら大丈夫ではないかと思っています。

「老兵は死なず、ただ去り行くのみ」といった御仁もいたようですが、まさにそのような心境であります。

困難は必ずやってきます。困難を上手に克服しながら、困難に寄り添いながら、前を向いていきましょう。磐城高校は永遠に不滅なのですから。

